

五日市場遺跡

塩尻ひまわり薬局建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

長野県塩尻市教育委員会

例 言

1. 本書は塩尻ひまわり薬局建設に工事に伴う五日市場遺跡（長野県塩尻市大字棧敷）の発掘調査報告書である。
2. 現場での発掘調査は、平成11年10月1日から平成11年10月16日まで実施した。また、遺跡および記録類の整理作業から報告書作成は、平成12年6月から平成13年3月まで行った。
3. 本書の作成にあたり、作業の分担は次のとおりである。

遺物洗浄：大和 廣

遺物註記：市川きぬえ、一ノ瀬 文、野村悦子

遺物復元：野村悦子

遺物実測：野村悦子

遺物図整理：塩原真樹、市川きぬえ、一ノ瀬 文

トレース：塩原真樹、竹原久子

写 真：塩原真樹

編 集：塩原真樹

4. 本書の執筆は塩原がおこなった。
5. 調査にあたり中信用労働者医療協会、有限会社ひまわり企画ならびに発掘調査団の皆さん、調査地主の竹原元重氏の御支援に対し感謝申し上げます。
6. 本調査の出土品、諸記録は平出博物館に保管してある。なお、今回の調査の出土品に註記した遺跡番号は「87」である。

凡 例

1. 遺構の番号は過去の調査に引き続いて付けてある。
2. 遺構の縮尺は1/60を基準とし、これ以外のもも含め、挿図中にその縮尺を明示している。
3. 遺物は土器実測図1/4を基準とし、これ以外のもも含め、挿図中にその縮尺を明示している。
4. 古代の土器分類は『中央自動車道長野線理蔵文化財発掘調査報告書』4—松本市その1総論編—に基づいておこなった。

目次

例言

凡例

I. 調査状況	1
1. 発掘調査にいたる経過	
記録	
発掘調査実施計画書	
2. 調査体制	
3. 調査の経過	
4. 遺跡の状況と面積	
II. 遺跡周辺の環境	3
1. 地理的環境	
2. 歴史的環境	
III. 調査の概要	5
1. 過去および今回の調査の概要	
2. 調査の方法	
VI. 遺構と遺物	7
1. 弥生時代の遺構・遺物	
2. 平安時代の遺構・遺物	
3. その他の遺構・遺物	
V. まとめ	15

写真図版

1. 調査状況

1. 発掘調査に至る経過

記録

- 平成11年9月30日 塩尻ひまわり薬局建設用地内の埋蔵文化財発掘調査について、有限会社ひまわり企画と委託契約を締結
- 10月20日 「埋蔵文化財発掘調査の報告について」を長野県教育委員会に提出
- 平成12年3月31日 「五日市場遺跡発掘調査終了について（通知）」を長野県教育委員会に提出

発掘調査実施計画書（一部のみ掲載）

1. 発掘調査地：塩尻市大字棧敷
2. 遺跡名：五日市場遺跡
3. 遺跡の現況：地目（畑）
4. 発掘調査の目的及び概要：開発事業「塩尻ひまわり薬局建設工事」に先立ち、400m以上を発掘調査して記録保存をはかる。
5. 調査の作業日数：発掘作業10日・整理作業21日・合計31日
平成11年度 発掘作業10日・整理作業0日・合計10日
平成12年度 発掘作業0日・整理作業21日・合計21日
6. 調査に関する費用：1,600,000円
平成11年度 950,000円
平成12年度 650,000円
7. 調査報告書作成部数：300部
8. 発掘調査の主体者及び委託先：塩尻市教育委員会

2. 調査体制

調査団長	平出友伯（塩尻市教育長）	
調査担当者	塩原真樹（長野県考古学会員・塩尻市教育委員会）	
調査員	小林康男（日本考古学協会員・塩尻市教育委員会） 小松学（日本考古学協会員・塩尻市教育委員会）	
発掘・整理参加者	市川きぬえ、一ノ瀬文、大和廣、小沢甲子郎、小林節子、塩原賢一、 新家政市、竹原仙治、竹原久子、中村則子、野村悦子、古畑昭夫、 由上はるみ	
事務局	塩尻市教育委員会・生涯学習部長	飯田正弘
	塩尻市教育委員会・社会教育課長	濱良光
	塩尻市教育委員会・平出博物館長	小林康男
	塩尻市教育委員会・平出博物館学芸員	小松学
	塩尻市教育委員会・平出博物館学芸員	塩原真樹

3. 調査の経過

平成11年10月1日	重機による表土除去、作業員による遺構検出作業を開始する。
10月2日	引き続き遺構検出作業。住居址と土坑を確認。
10月5日	各土坑の掘り下げ。遺物はほとんど発見できず。
10月6日	各住居址の掘り下げを開始。 49号住居址で須恵器杯、52号住居址で灰釉長頸壺を検出。
10月8日	引き続き住居址の掘り下げ。
10月9日	住居址の掘り下げおよび遺物の取上げ。
10月13日	住居址の測図。
10月16日	器財等を撤収し、現場での調査が一応終了する。
10月17日	調査区および遺構の写真撮影。
10月19日	全体図測図。

整理作業及び発掘調査報告書の作成は、平成12年6月から平成13年3月まで平出博物館において実施された。

4. 遺跡の状況と面積

第1表 発掘調査の状況と面積

遺跡名	場 所	現況	種 類	全体面積	事業対象面積	調査面積	調査経費
五日市場	塩尻市大字 棧敷	畑	集落跡	14,000m ²	1,500m ²	400m ²	1,600,000円

第2表 発掘調査経過一覧表

遺跡名	平成11年度									平成12年度											
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
五日市場			発掘																		遺物整理・図面作成・原稿執筆

II. 遺跡周辺の環境

1. 地理的環境

五日市場遺跡は塩尻市街地の東側、棧敷地籍に所在する遺跡である。遺跡の東側は、高ボッチ山塊に展開する広大な山麓斜面沿いに発達した片丘丘陵が近くまで押し迫っている。一方、遺跡の西側には、東山山麓から源を発する田川が北に向かって流れている。

今回の発掘調査地点は片丘丘陵と田川により形成された扇状地の接点にあり、田川と鉤物師屋川により形成された小舌状台地に位置している。

2. 歴史的環境

五日市場遺跡の周辺は近年、ほ場整備事業や国道20号線塩尻バイパス建設関連の開発に伴い、数多くの遺跡の発掘調査が実施されている。以下、周辺の主要遺跡をいくつか取り上げて、発掘の成果を概観してみたい。(第1図)

〈中挾遺跡〉

過去3度にわたる発掘調査によって、住居址84軒、建物址10棟が検出された。住居址の時代の内訳は、縄文時代3軒、弥生時代7軒、古墳時代11軒、平安時代62軒、中世1軒となっている。

主に古墳時代から平安時代にかけての大集落で、その位置から考えて、五日市場遺跡と何らかのつながりがあったことが予想される。

〈和手遺跡〉

昭和62年度の国道20号線バイパス建設および市道改良工事に伴う調査で、弥生時代の住居址3軒、方形周溝墓3基、古墳時代から平安時代にかけての住居址32軒、掘立建物址3棟を検出した。

平成6年度のカーパーク建設に伴う調査では、松本平最大級となる旧石器時代の遺跡の存在が確認されたほか、弥生時代の住居址11軒、方形周溝墓1基、古墳時代から平安時代にかけての住居址53軒が検出された。

さらに、平成7年度のカインズホーム建設工事に伴う調査で、弥生時代19、古墳時代から平安時代106もの住居址が検出されている。

これらの調査から、和手遺跡は、旧石器時代および弥生時代から平安時代にかけての大集落であったことが確認された。

〈中島遺跡〉

昭和50年度にほ場整備事業に関連した調査が行われている。縄文時代中期の住居址14軒、弥生時代後期の住居址5軒、奈良時代の住居址1軒が検出された。弥生期の遺跡が多く存在した田川自然堤防上に縄文時代中期の遺構が出土するのは珍しく、特異である。

〈向陽台遺跡〉

昭和60・61年度にバイパス工事関係で発掘調査が行われた。縄文時代早期4軒、前期4軒、弥生時代6軒の住居址と、方形周溝墓1基が検出された。なかでも特に、直径9mにもなる縄文早期の住居址の発見は大きな成果であった。

〈北原遺跡〉

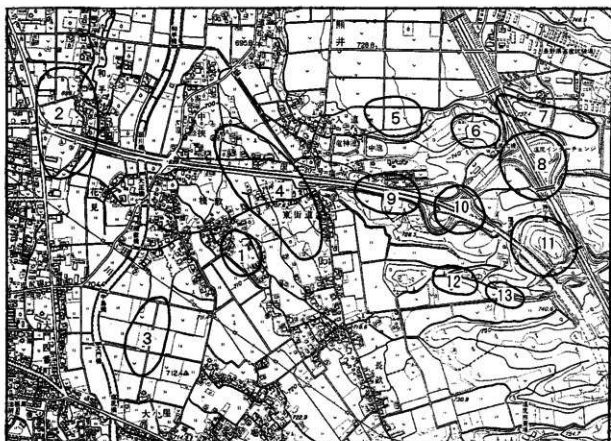
隣接する向陽台遺跡と同じ昭和60年度に、国道20号線バイパス工事関連で調査が行われ、縄文時代前期の住居址4軒、中期の住居址3軒が検出されている。松本平では数少ない縄文時代前期の集落の一つである。

〈福沢遺跡〉

昭和59年に塩尻東地区は場整備事業関連で調査が行われ、縄文時代早期集石址1、平安時代の住居址が4軒検出された。出土した縄文早期押型文土器の一括資料は、塩尻の縄文早期を考える上で、貴重な資料である。

〈堂の前遺跡〉

隣接する福沢遺跡と同じ昭和59年のほ場整備事業関連で調査が行われた。縄文時代早期の住居址5軒、中期3軒、平安時代1軒を検出した。なかでも縄文早期の一辺13mもの大型住居は全国的にも最大級の住居として注目される。



1. 五日市場
2. 和手
3. 中島
4. 中扶
5. 入道
6. 榊ノ木
7. 電神平
8. 電神
9. 向陽台
10. 北原
11. 高山城
12. 福沢
13. 堂ノ前

第1図 五日市場遺跡周辺遺跡分布図 (S = 1:10,000)

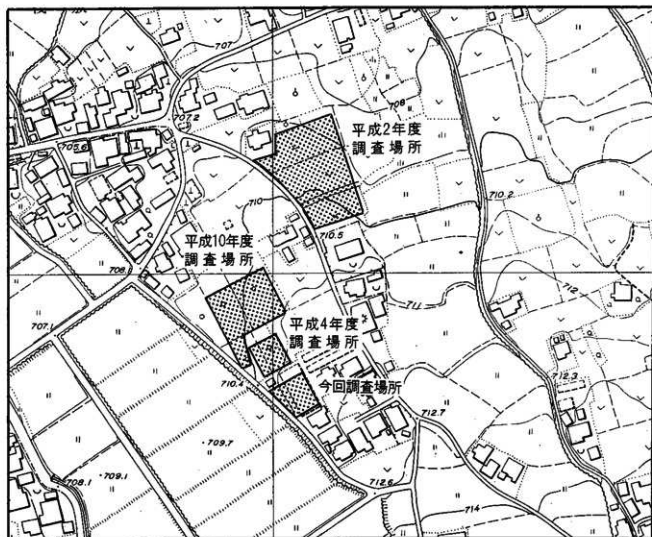
Ⅲ. 調査の概要

1. 過去および今回の調査の概要

五日市場遺跡は塩尻市棧敷地区に所在し、田川と鋳物師屋川により形成された小舌状台地上に立地している。本遺跡は、東西200m、南北300mの広範囲にわたって展開している遺跡で、過去に平成2年度、4年度、10年度の3回発掘調査が行われている。

平成2年度の土地改良事業に関連する調査では、遺跡の東側部分の一部を調査した結果、弥生時代後期の住居址1、平安時代の住居址12、建物址4、中世の道路址1が発見された。道路址の性格については不明だが、現在のところ道路址の発見は市内で2例と少なく、非常に貴重な発見である。また、この地が昔から重要な交通の要衝であったと推測できる。

平成4年度には塩尻協立診療所建設工事に伴い、遺跡西側部分の発掘調査が行われ、平安時代の住居址13軒と、これらに伴う多くの遺物が検出された。遺物の中では、土錘、コイル状の青銅製品など、その用途・性格等に注目すべきものも出土している。



第2図 五日市場遺跡位置図 (S=1:2,500)

平成10年度の調査は、塩尻協立病院建設に伴って行われ、弥生時代の住居址1軒、方形周溝墓1基、円形周溝墓1基、平安時代の住居址17軒、土坑墓1基を検出した。なかでも弥生時代の円形周溝墓は市内からの発見は初めてであり、弥生時代の墓制を考える上で貴重な資料である。

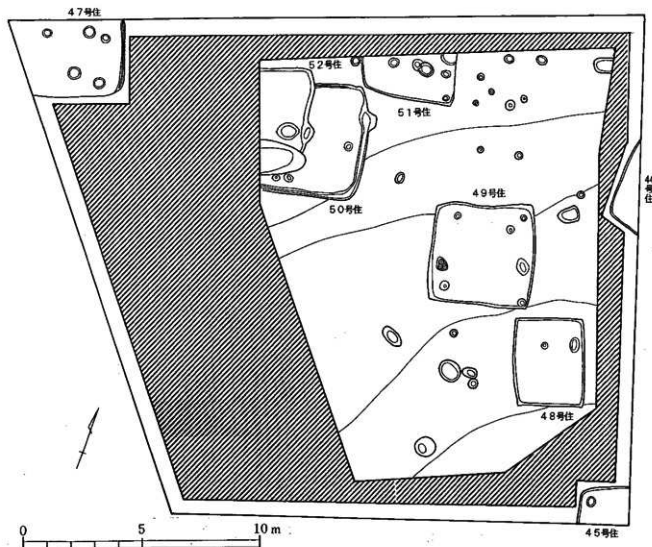
これらの調査によって、本遺跡が弥生時代から中世にかけての遺跡であることが判明した。また、本遺跡が中挾・和手・吉田向井・吉田川西といった周辺の諸遺跡とともに田川流域の大集落の一つであったことが明らかとなった。

今回の発掘調査は、塩尻ひまわり薬局建設工事に伴い、遺跡南西部の畑地約400㎡を調査した。その結果、8軒の平安時代の住居址、弥生時代、平安時代、中世の遺物等を見出すことができた。

調査区は以前ビニールハウスが建設されていたため、耕作による攪乱が目立ち、ハウスの柱穴跡が何本も残っているなど遺跡の保存状態があまり良好ではなかった。(第2図)

2. 調査の方法

今回の調査に際しては、表土を重機により除去した後到手作業で遺構の検出を行い、検出後に遺構の掘り下げ等の調査を行った。なお、始めに擁壁の設置工事の際に調査区の四方を1m幅で調査し、その後、内部を調査した。(第3図)



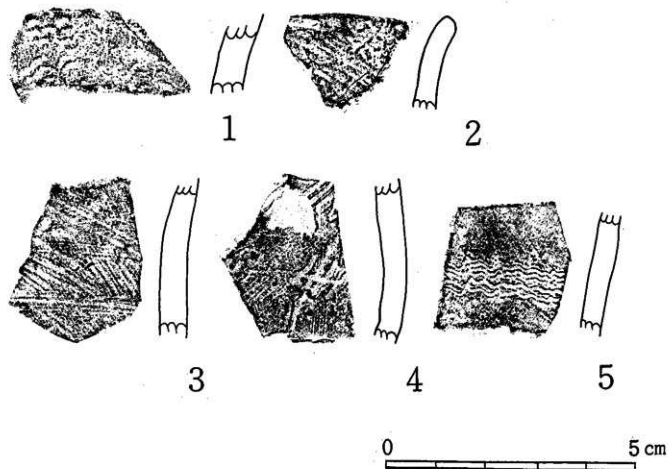
第3図 五日市場遺跡遺構全体図 (S = 1 : 160)

IV. 遺構と遺物

今回の調査で発見された遺構は、平安時代の住居址が8軒、土坑が20基、時期不明の土坑が1基である。遺物は弥生土器片や黒色土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の白磁片等が出土した。遺物のほとんどが4軒の住居址から見つかっている。

1. 弥生時代の遺構・遺物 (第4図)

土器片が見つかったが、これに伴う遺構は確認できなかった。図示したのは5点で、2は甕の口縁部である。1は波状文が施文され、2は短線文が斜めに巡っている。3は褐色の器面に短線文が網目状に走っている。4は黒褐色をした胴部破片で、ハケ状の調整痕がみられる。5は胴部破片で、中央に波状文が走り、内外面ともハケで調整されている。



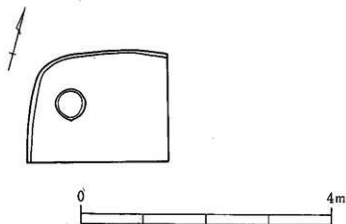
第4図 弥生土器

2. 平安時代の遺構・遺物

【第45号住居址】

遺構 (第5図)

調査区南東端に位置している。住居址の大部分は調査区外のため全容をとらえることができず、北西部がわずかに検出されたのみである。柱穴と思われるピット1が1基検出された以外には遺構は確認できなかった。また、遺物も発見できていない。



第5図 第45号住居址

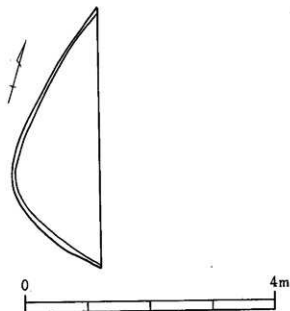
【第46号住居址】

遺構 (第6図)

調査区の東端中央で検出された。本址もほとんどが調査区外にあたるが、残存の形状からして方形か長方形プランを呈すると考えられる。周溝、柱穴、カマド等の遺構はみられなかった。

遺物 (第13図)

黒色土器、須恵器、土師器が出土している。1は黒色土器で2、3は須恵器杯の底部である。4は土師器甕の口縁部である。時期：平安時代4～5期

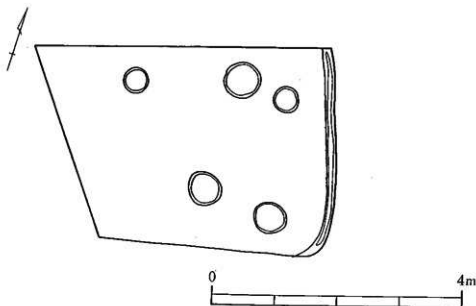


第6図 第46号住居址

【第47号住居址】

遺構 (第7図)

調査区北西端で検出された。北側と西側が調査区外のため東西、南北の長さは調査できなかったが、残存部の形状から方形プランを呈すると考えられる。床は礫質で踏み締まっている。住居内に5つのピットがみられたが、柱穴かどうかは特定できない。周溝が検出できたほかは、カマド等の施設も確認できず、遺物も見つからなかった。



第7図 第47号住居址

【第48号住居址】

遺構 (第8図)

調査区の南東に位置している。東西 3.1m、南北 3.9mの長方形プランを呈する。壁高は全体的に10~15cmを測る床は砂利質で堅く、平坦である。住居内には2本のピットを確認したが、主柱穴は特定できない。その他、カマドおよび周溝は確認できなかった。

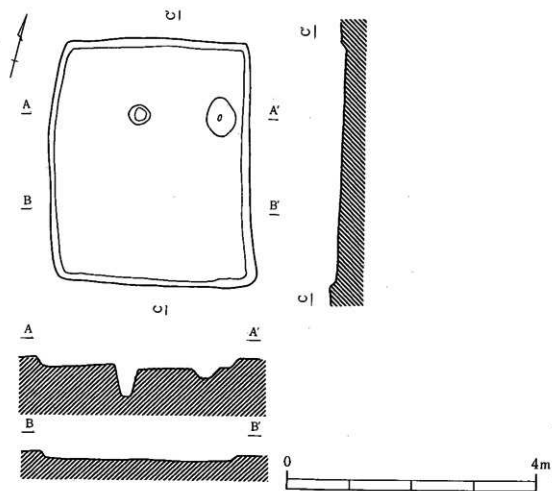
【第49号住居址】

遺構 (第9図)

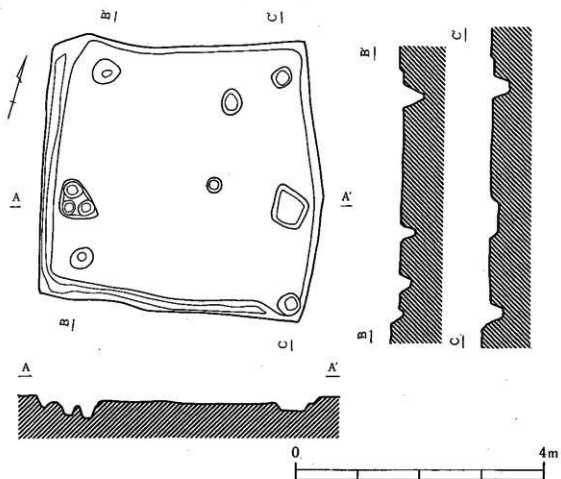
調査区の中央部に位置している。東西 4.5m、南北 4.2mの方形プランを呈した住居である。壁高は東側7cm、西側12cm、北側5cmとなっている。床は礫質で凹凸があり、住居内部はビニールハウスの柱と思われる穴により一部破壊され、残存状態はあまりよくない。しかし、柱穴と思われるピットが四隅に検出できたほか、東端中央部にカマドの跡と考えられる掘りこみを確認した。さらに住居の西側から南側にかけて周溝を検出できた。

遺物 (第13図)

黒色土器、須恵器、土師器の破片が多量にみつかった。そのうち7点を図示した。5は黒色土器碗である。6、7は須恵器杯である。8は土師器の杯片でいわゆる甲斐型杯である。9~11は土師器甕の口縁部で、9、10はいわゆる武蔵甕である。11には内面に指跡がある。時期：平安時代5期



第8图 第48号住居址



第9图 第49号住居址

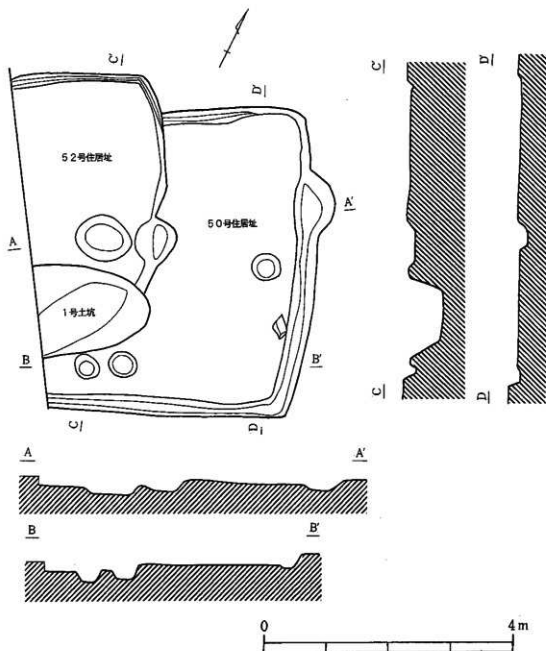
【第50号住居址】

遺構 (第10図)

調査区の北西部で検出された。西側を52号住居址によって切られているが残存部から推定して方形プランを呈すると思われる。東西の長さは不明だが、南北は4.8mを測る。床は比較的締まっている。カマドは東壁中央に構築されており、内部から礫や焼土が確認されたほか、土師器甕が出土した。周溝は壁沿いに全体的にみられる。ピットは床面に3本検出されたが、柱穴かどうか特定できなかった。

遺物 (第13図)

土師器、黒色土器、須恵器が大量に出土している。12、13は黒色土器で、12は碗、13は杯である。14は須恵器の杯である。15は土師器甕の口縁部、16は底部である。17、18はカマドから出土した土師器のハケ甕である。時期：平安時代4期



第10図 第50号、52号住居址、1号土坑

【第51号住居址】

遺構 (第11図)

調査区の北端中央部で検出された。約半分が調査区外のためプランは特定できなかったが、残存部から推察して、方形もしくは長方形を呈すると思われる。床は礫質で堅く締まっている。住居内には5本のピットが確認されたが柱穴かどうかは特定できなかった。カマドは北東部の調査区外との境にあり、焼土の堆積した掘り込みが見られる。そのほか周溝等の施設は確認できなかった。

遺物 (第13図)

土師器、黒色土器、須恵器が出土している。ほとんどがカマドの焼土部分からの出土で、3点を図示した。19、20は黒色土器杯で、21は須恵器杯である。時期：平安時代4～5期

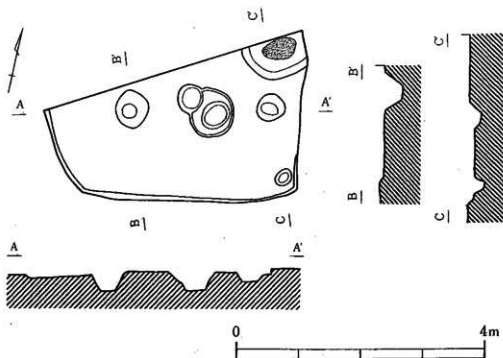
【第52号住居址】

遺構 (第10図)

調査区の北西に50号住居を切る状態で検出された。西側が調査区外のため調査できなかったほか、南側も土坑によって切られているので、プランは特定できなかった。床は礫質で比較的堅く、平坦である。ピットは1基検出したが、本址との関係は不明である。北壁に沿って周溝が確認されたほか、東側中央壁際に床面をわずかに掘り込んだカマドを確認した。カマド内に焼土は確認できなかったが、礫のほか灰釉陶器の長頸壺が出土している。

遺物 (第13図)

本址も大量に遺物が出土したが、そのうち7点を図示した。22～25は黒色土器で、22は碗、23、24は杯である。25は墨書がみられるが、字は分らない。26、27は軟質の須恵器杯である。28は灰釉陶器の長頸壺でカマドから出土した。時期：平安時代7期



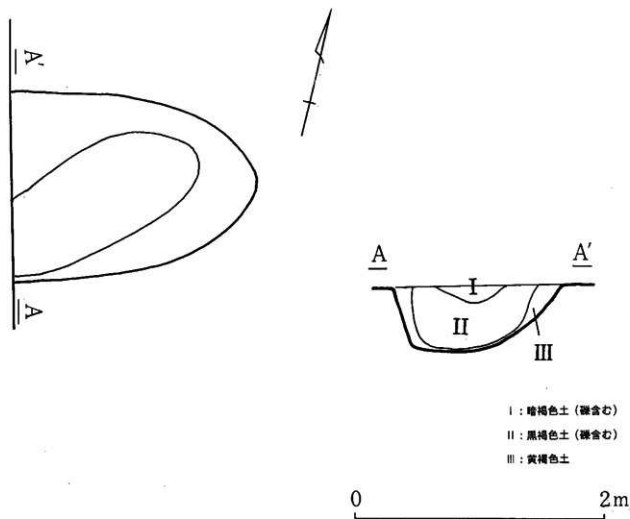
第11図 第51号住居址

3. その他の遺構・遺物

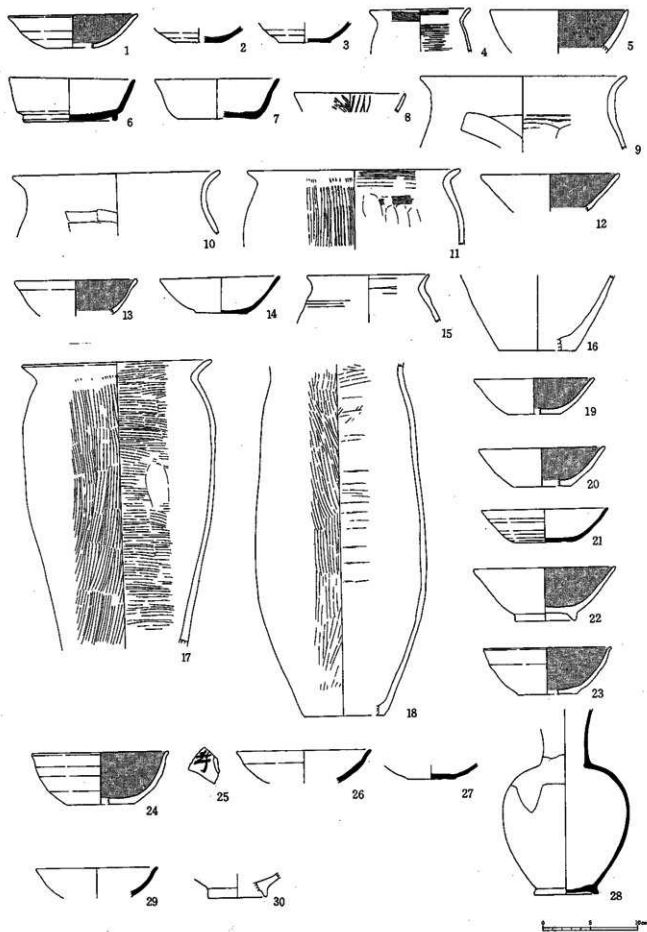
北西部で確認した土坑と、白磁破片について記述する。

土坑は調査区の北西で検出され、52号住居址を切っている。調査区外にかかるため全体の大きさはつかめなかったが、残存部の形状から楕円形をしていると考えられる。残存部の南北の長さは1.5mを測り、52号住居の床部から測った深さは60cmである。52号住居を切っている出土状態から考えて、それ以降に作られたものであるといえるが、内部からは遺物は何も出土しておらず、本遺構の時期、性格を特定することはできなかった。(第10・12図)

白磁は碗の底部片で、遺構外から1点のみ検出した。時期は12世紀後半から13世紀初期のものと思われる。(第13図30)



第12図 1号土坑全体図および断面図



第13図 古代の土器

V. ま と め

五日市場遺跡は過去に3回の発掘調査が行われ、その結果、現在までに弥生時代の住居址2軒、平安時代の住居址42軒、建物址4棟をはじめ多くの遺構が確認されている。そのなかには、平成2年の調査で確認された中世の道路址、平成11年における調査での弥生時代の円形周溝墓の検出など貴重な発見も含まれている。また、建物においても弥生時代、平安時代の上器・石器などが多数出土しており、これらの調査から本遺跡が古代の重要な集落の一つであることが分かったことや、弥生時代の墓制、中世の交通史等を考える上で貴重な資料を提供したことなど、その成果は非常に大きなものがある。

今回の調査でも、今までの調査に比べると数こそ少なかったものの、平安時代の住居址などの遺構、弥生・平安時代の遺物が検出され、本遺跡の重要性を改めて認識する結果を得ることができた。

しかし、遺跡の状態が不良であったことや、発掘面積が狭いため調査区外にかかってしまい完掘できなかった住居址がほとんどであったことなど、調査が十分に行えなかったことは残念であった。

五日市場遺跡は 14,000㎡の範囲にわたって広がっている遺跡で、周辺環境が急激に変化している場所に所在しており、これからも開発に伴う調査が行われる可能性は高いと言える。したがって、いままでの発掘成果と今後の発掘調査により結果を総合的にとらえることによって、本遺跡の性格がさらに明らかになっていくものと期待される。

また、本遺跡周辺の田川流域には隣接する中扶遺跡や、田川を挟んだ場所に位置する和手遺跡をはじめとする松本平の古代を代表する大集落が多く存在しており、これらの遺跡との関連なども考えながら本遺跡のみならず、田川流域全体の古代の様相が解明できることを期待したい。

最後に、今回の発掘調査を行うにあたり、深い御理解と御協力を賜りました、医療法人(社団)中信用労働者医療協会、有限会社ひまわり企画ならびに地元関係者、関係諸機関の方々に対し厚く御礼申し上げます。

また、これらの成果を得ることができましたのも、精力的に発掘調査に携わっていただきました発掘作業参加者の多大な努力があったことを記し、心より感謝申し上げます。

報告書抄録

ふりがな	いつかいちばいせき							
書名	五日市場遺跡							
副書名	塩尻ひまわり薬局建設用地の埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
編著者名	塩原真樹							
編集機関	塩尻市教育委員会							
所在地	〒399-0786 長野県塩尻市大門七番町3番3号 / TEL 0263-52-1022							
発行年月日	2001年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査 期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いつかいちばいせき 五日市場遺跡	ながのけんしおじりし 長野県塩尻市 おおあざまじき 大字棧敷	20215	126	36° 9' 39"	137° 58' 14"	1999 10.1~ 1999 10.16	400㎡	塩尻ひまわり 薬局建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
五日市場遺跡	集落址	弥生時代		弥生土器		五日市場遺跡の集落の広がりを把握することができた。		
		平安時代	竪穴住居跡 8軒 土坑 21基	土師器・黒色土器 墨書土器・須恵器 灰釉陶器				

写真図版

図版 1



五日市場遺跡全景（北から）



重機による除去作業



遺構検出作業



遺構検出作業



第45号住居址



第46号住居址



第47号住居址



第48号住居址



第49号住居址



第50号・52号住居址



第51号住居址



1号土坑



49号住居址遺物出土状況(須恵器杯)



50号住居址遺物出土状況(土師器甕)



52号住居址遺物出土状況(灰軸長頸壺)

五日市場遺跡

塩尻ひまわり菜局建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成13年3月20日 印刷
平成13年3月23日 発行

発行者 塩尻市教育委員会

